

建築家 通信

2021.3.31
vol.123

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

感覚の原風景を探す

小堀哲夫建築設計事務所／法政大学 教授 小堀 哲夫



実家の広間から庭を見る。



「ROKI Global Innovation Center -ROGIC-」写真：川澄・小林研二写真事務所

最近よく自分の原風景とは何かを考える。生まれ育った岐阜にある築60年の実家は、大工の棟梁だった父が建てたもので、大黒柱は黒光りし、子どもの頃は竿縁天井を見ながら木目が動き出しそうだと思ったことを思い出す。薄暗い広間から外へ目を転じると、広縁越しに庭が見え、木々の葉が光を受けてきらきらと輝いていた。そこにあったのは、光と闇のグラデーションだった。幼い頃に全身で体感したこれらの経験は、強烈な記憶として私に刻まれた。住んでいた頃はディテールなど気にもかけなかったが、今になって「あそこはどのような細工だったのだろうか」とか「書院の建具のデザインとぼんやりと光る床の間の感じが良かったな」など、さまざまなことが気になり思い起こされる。

自分のルーツを探ることは、自分の内面を旅することである。これまで建築を見るために世界中のさまざまな国を旅してきたが、旅先で見たあらゆる都市や建築、自然、暮らしなどは、私の中に一つの“点”として刻まれていた。しかし、自らのルーツを探るようになり、今まで設計してきた建築を含めた“点”として存在していたものたちが、最近になって緩やかに“線”としてつながれてきているように思う。いや、もともと見えない糸でつながっていたのに、気づかなかっただけなのかもしれない。

当たり前のことが当たり前でなくなることを、私たちはコロナ禍で嫌というほど思い知らされた。実家で住んでいた頃は何気なく過ごし、当たり前になっていたこと、たとえばお風呂は薪をくべていたし、薪は木の廃材を使い、自分の日課として薪を割っていたこと。トイレは母屋とは別の建物で外にあり、行くのが面倒だったこと。あの当時はそれが嫌だったが、とても豊かなことだったのだと今にして気づかされる。

実家のトイレからは田んぼが見え、その先には大きなお寺があった。父が住職に頼まれ、時間をかけて普請したの

だが、実家から目と鼻の先なのもあって私にとっては格好の遊び場だった。お堂の中には、耳に鉛筆をかけ、墨壺で図面を描き黙々と一人で作業する父の姿があった。独りで木を刻み、つくり続ける父親の姿に、なんて孤独な仕事なのだろうと私は思った。だから父には、ものづくりの道を生きることに対する尊敬の念と同時に、畏怖の念も子どもながらに感じていたように思う。

私は、建築を目指して東京に出た。この小さな田舎の町から出れば、もっと大きな感動があったからだ。しかし大学一年生の時に、東京が嫌になった。それは身体的な葛藤や居心地もそうだが、「この感覚は何だろう？」という心が震えるような感覚がなかったからだ。孤独の中にある身体性を感じなかった。その後、登山に目覚めるのだが、そこには私が求める体験のすべてがあり、それは建築体験そのものだと考えた。

私が建築に目覚めたのはいつだったのだろうか。それはきっと建築に対して「この感覚は何だろう？」と感じた時だったと思う。それはとても小さな感覚や感動、違和感であり、人は往々にして他人の意見に振り回されて見過ごしてしまいがちだ。しかし、ものづくりの根源となるのは、自分自身が身体で感じたわずかな感覚、感動、違和感であり、その体験は誰にでも平等にあるはずである。建築を学ぶ学生の方々には、それを丁寧に拾い上げ、耳を傾けてほしい。そして自らの感覚を信じ、それに正直に向き合い、恐れに打ち勝って、建築をつくり続けてほしいと思う。



今年度、第15回となる建築祭も2月20日21日の日程で無事終えることができました。まずは大変お忙しい中、オンラインにて講演とコンクール審査委員長を務めていただきました小堀哲夫様、コンクールの審査をしていただきました長野県建築士会会長の荻原白様にお礼を申し上げます。また松本市美術館には例年以上にご協力をいただき、無理を聞いてくださったことに感謝申し上げます。



専門学校の部/講評

今回の開催では初めての試みが多く、挑戦せざるを得ない状況の中で、多くのハードルを抱えての準備となりました。

約一年前から続く、新型コロナウイルスの流行という史上稀な環境の中、手探りな状態で開催方法を模索してきました。通常であれば一般公開のイベント開催でありますから、来場者をより多く招き入れ、学生たちも自分の作品を多くの方に見ていただき、皆さんの前で成果や建築に関する考えを発表することで、自身の経験と建築に対する一つのステップアップにつながる重要な機会ではありますが、今回の事では人と人の接触を極力減らしオンラインでプレゼン、審査をするということで、慣れないこと

ばかりであったように思います。学生たちも学校での授業がままならない中での卒業設計製作であったと思いますが、年々上がっていく完成度には驚かされるものがありました。特に今年は高校生のレベルが高く、プロジェクトの組み立て方や模型の完成度が例年よりも数段上がっているように感じました。

最後になりますが、事業委員長一年目という不慣れな状態で、しかも新型コロナ騒動により内容や準備が変更に次ぐ変更で、委員の皆様には大変な苦労をおかけしたことをお詫び申し上げます。またテレビスタジオさながらのオンラインの機材や音響のセッティングをしていただきました総務委員会、事業委員会、事務局の佐藤さん、皆様に感謝申し上げますとともに完成度アップへの追及心に敬服する次第です。どうもありがとうございます。



大学の部/プレゼン

来年は松本市美術館が全面改修ということで使用できませんので、松本市芸術館にて建築祭のすべてのプログラムを行う予定です。来年は従来のように、より密接な交流が行えるような開催ができることを願っております。

長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

大学の部 金賞

信州大学工学部建築学科
伊藤 雄大



大学の部 受賞者/前列中央が伊藤さん

この度は、長野県卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。同時に、コロナ禍でありながらこのような発表の機会を頂けたことを心から感謝申し上げます。

卒業設計では、今自分の住んでいる長野県長野市の駅前に住民によるリノベーションやセルフビルドで更新され続ける集合住宅を提案しました。住んでいる人や周辺地域からの影響を受けて、2021年竣工時から、20XX年まで変化し続ける住まいの姿を想像しながら計画しました。

本制作では、設計の難しさ、図面と模型を用いて自分の考えを人に伝えることの難しさ、自分の未熟さを実感しましたが、今回このような評価を頂くことができ本当に嬉しく思います。まだまだ計画が不十分な部分や、表現しきれない部分があるので、講評で頂いたアドバイスをもとにブラッシュアップを続けていきます。これからも建築に真摯に向き合い、精進して参ります。この度は本当にありがとうございました。

専門学校の部 金賞

上田情報ビジネス専門学校
建築学科インテリア住環境コース
丸山 菜奈



専門学校の部 受賞者/前列左から2番目が丸山さん

新型コロナウイルス感染症に伴い、このコンクール自体が開催できるのが危ぶまれた中で、コンクールが開催できたことをとても嬉しく思うと共に、プロの建築家の方々から評価をしていただくという貴重な機会を頂けたこと、心から感謝申し上げます。

卒業設計では、日本人が古来より抱き続けてきた自然を美しいと思える精神“和の心”を伝統や文化とともに未来へと残し、伝え続けてゆきたいと考え、それらを四季の移ろいとともに楽しむ施設を設計しました。四季があるのは日本だけではありませんが、四季の移ろいがこんなにも美しいと評される国はほかにありませんし、どんなに良い環境にいても、それを“美しい”と感じる心がなければ日本の良さ、和の心を後世に伝えることはできません。私は、この想いを建築という学びを通じて伝えたいと強く思っていました。私の想いが会場の方々へ届き、このような素敵な賞を頂けたこと、心から嬉しく思います。建築を通して自分ができること、伝えられることを、これからさらに考えながら精進して参りたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

大学の部

- 金賞 伊藤 雄大 (信州大学) 多様な感受を包容するすまい
- 銀賞 横田 勇樹 (信州大学) 牧童が口ずさむ舎 — 人を繋ぐ牛舎型六次産業施設の提案 —
- 銅賞 西宮夏里武 (信州大学) 繕いを、編む — 千曲川水害後1年目の修復風景の集積による失われた児童館の再建 —
- 銅賞 酒向 正部 (信州大学) 科上の小農 — りんご選果場と育苗ハウスから始まる耕作放棄地の再生 —
- 奨励賞 工藤 理美 (信州大学) 道草譚 小学校通学路における100の遊び場

専門学校の部

- 金賞 丸山 菜奈 (上田情報ビジネス専門学校) 「彼方から、彼方へ。」 — 一人たちからのメッセージ —
- 銀賞 永井 翠 (上田情報ビジネス専門学校) ミドリイロ
- 銅賞 清水 光貴 (上田情報ビジネス専門学校) ながとであそぼ
- 奨励賞 久保 遥希 (上田情報ビジネス専門学校) 住まいの着せかえ

高校の部

- 金賞 杉山 拓 (飯田ODC長岡短大) 憩いの森 総合型交流施設
- 銀賞 和田 優斗 (上田千曲高校) Noix テラス ~暮らしやすい町へ~
- 銀賞 関 菜々美 (長野工業高校) 想いをおくる住処 野尻湖に建つ町の診療所
- 銅賞 坂戸 睦美 (長野工業高校) 「塔」 災害に備える
- 奨励賞 大場 雄貴 (池田工業高校) Forget daily life ~大自然と異空間オーバーチュ〜
- 奨励賞 湯澤 慎 (飯田ODC長岡短大) wing ~自然の中の地獄地酒レストラン~
- 奨励賞 鈴木 陸渡 (上田千曲高校) 町おこし ~工業と農業を生かす町づくり~

新入会員紹介

正会員 TNdesign一級建築士事務所 小澤 伸行 さん



この度JIA長野県クラブに入会しました。TNdesign一級建築士事務所の小澤と申します。出身は北海道ですが、長野市で設計に勤しんで今年で16年目になります。以前よりJIAへの入会を切望しておりましたが、素敵な縁に恵まれて会員になることができました。これからも会員の皆様とともに、建築文化の発展に貢献出来るよう勉強させて頂きたいと考えています。

よろしくお願ひ申し上げます。
(入会手続き中。4月7日幹事会承認後入会となります。)

- 開催したイベント
- 12月4日(金)… 冬のセミナー
 - 1月6日(水)… 正副代表会
 - 1月12日(火)… 幹事会 (第4回)
 - 2月20日(土)… 建築祭・文化講演会
 - 2月21日(日)… 建築祭・長野県学生卒業設計コンクール
 - 3月31日(水)… 『信州の建築家とつくる家 第16集』 発行

編集後記
コロナ禍の中、異例な環境で建築祭が開催されました。システム構築された事業・総務委員会の連携は素晴らしいものでした。小堀先生に直接会うことは叶いませんでしたが、モニターを通してでも、その気さくな人柄が感じることができ、また学生たちからも感心させられることが多くあり、充実した2日間でした。発行にあたり、原稿をいただきました皆様に感謝します。……………鈴木敏之

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

- 今後の行事予定
- 4月6日(火)… 監査
 - 4月7日(水)… 2020年度 幹事会 (第5回)
 - 4月23日(金)… 通常総会・会員集会
 - 5月11日(火)… 2021年度 拡大総務委員会 出版レビュー



編集人/鈴木 敏之 発行人/新井 優
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com